

単収 200kg/10a 以上の確保、大粒比率向上に向けて

『**培土作業**』や『**排水対策**』等の基本技術を徹底し、初期生育を確保しましょう。
また、培土後は発生している**雑草の種類を確認し、除草剤を適切に使用**しましょう。

1 培土作業

1 回目は遅れずに、2 回目は確実に

- ・培土作業は、大豆の生育状況を確認の上、ほ場が乾いている時に晴れ間を見て早めに実施しましょう。
- ・培土効果を高めるため、培土は適期に2回行うとともに、株元までしっかり土をかけましょう。
- ・降雨等で適期に作業が出来ない時は、多少遅くなっても土が乾いてから実施しましょう。

【培土作業の留意点】

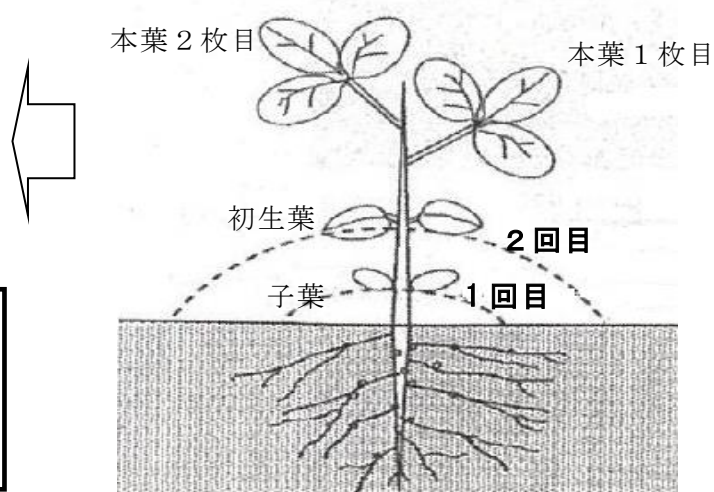
- ・作業前に培土板や耕うん爪を必ず点検しましょう。
- ・適正な作業速度で土をかけましょう。

○ 培土の時期と高さの目安

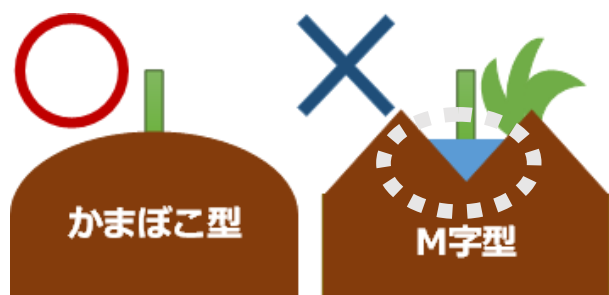
	時 期	高 さ
1回目	本葉2～3葉期 (播種後20～25日頃)	子葉が 埋まる程度
2回目	本葉4～5葉期 (播種後30～35日頃)	初生葉が 埋まる程度

土寄せされた茎から出る新根（不定根）の発生が盛んなのは播種後20～35日頃
→大豆の根が大きくなるタイミングで適期培土を行い、根粒の増加や活性を向上させましょう。

1 回目培土時の大豆（本葉2葉期）



【培土における株元への土寄せ】



◆株元に凹みのある培土はダメ！

- ・凹んだ部分に水がたまり、湿害や病害が発生
- ・土がないため新根が伸びず、生育不良となる
- ・株間に発生する雑草を抑制できない
- ・倒伏しやすく、コンバイン収穫が困難

2 排水対策

- ・培土後は、その日のうちに培土でできた溝と額縁排水溝と排水口とをしっかり連結し、排水が速やかに行えるようにしましょう。
- ・降雨後は、排水溝の点検と手直しを行い、雨水を停滞させないようにしましょう。



- ①ほ場の排水性向上のため、枕地の畦を切って、排水口に直結する溝を増設する。
- ②排水口を掘り下げる。

排水溝の手直しをしていないと、畝間に水が溜まります。溝を連結して、ほ場の排水性を高めましょう。



溝の手直し！



水が流れる！

【裏面につづく】

3 雑草防除

- ・雑草の発生が多く培土のみで雑草の発生を抑えきれない場合は、雑草の種類や葉齢に応じて茎葉処理除草剤等がしっかりかかるよう散布しましょう！
- ・除草剤を使用する場合は、以下の表を参考に、使用上の注意をよく確認し、正しく使用しましょう。

全面散布の場合は、株元の雑草までしっかり薬剤がかかる、大豆 3 葉期頃までが散布適期です。

○除草剤散布の目安

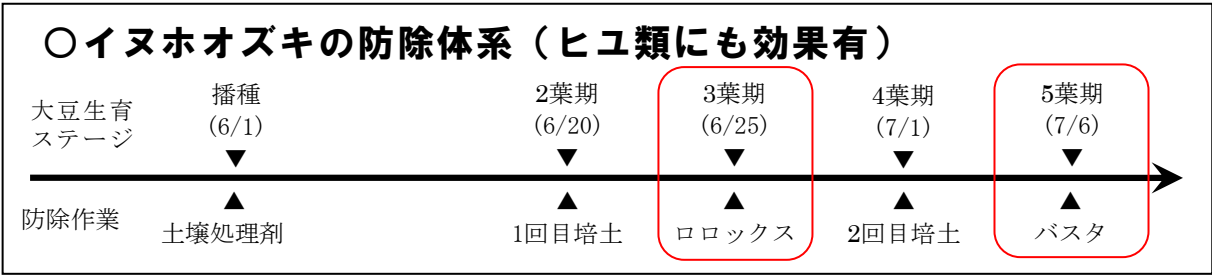
対象雑草	薬剤名	10a 当たり散布量	使用方法	散布時期	使用回数
1 年生イネ科 (スズメノカタビラ除く)	ポルトフロアブル	200～300mL (水 100L で希釈)	雑草茎葉散布 又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草 3～10 葉期) ※収穫 30 日前まで	1 回
1 年生広葉 (イネ科を除く)	大豆 バサグラン液剤 注 1)	100～150mL (水 100L で希釈)	雑草茎葉散布 又は全面散布	大豆 2 葉期～開花前 (雑草の生育初期～6 葉期) ※収穫 45 日前まで	1 回
		300～500mL (水 100L で希釈)	畦間雑草 茎葉散布	大豆の生育期(雑草の生育初期～6 葉期) ※収穫 45 日前まで	
1 年生雑草	新 パワーガイザー 液剤 注 2)	200～300mL (水 100L で希釈)	畦間雑草 茎葉散布	生育期(雑草発生揃期～2 葉期) ※収穫 30 日前まで	1 回
	ロロックス 注 3)	100～200g (水 70～150L で希釈)	雑草茎葉兼 土壌散布 (畦間・株間処理)	大豆 3 葉期以降、雑草生育期 (雑草草丈 15cm 以下) ※収穫 30 日前まで	1 回
	バスタ液剤 注 3)	300～500mL (水 100～150L で希釈)	雑草茎葉散布 (畦間処理)	雑草生育期 ※収穫 28 日前まで	ゲルホシネット及び ゲルホシネット P 3 回以内
			雑草茎葉散布 (株間処理)	大豆 5 葉期以降、雑草生育期 ※収穫 28 日前まで	

- 注 1：大豆バサグラン液剤は高温時の使用で薬害が出る恐れがあるため、高温が続くと予想される場合は使用を避ける。
- 注 2：畦間散布を行う場合、薬液が作物に飛散すると黄化症状の薬害を生じるおそれがあるので、作物に飛散しないように注意する。
- 注 3：ロロックス、バスタ液剤は非選択性除草剤のため、大豆の葉にかからないように散布する。

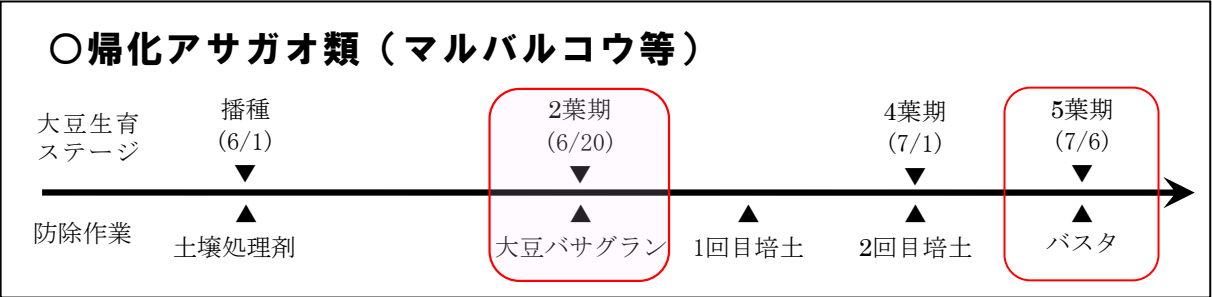
難防除雑草の防除について

- ・管内では『イヌホオズキ』の発生が増えており、果実（液果）は大豆の汚損粒の原因となります。
- ・また、畦畔等からマルバルコウ（帰化アサガオ類）のほ場への侵入が見られます。
- ・帰化アサガオ類は大豆に絡みつくと、大豆を倒伏させ、収穫作業が不可能となる場合もあります。
- ・発見したら直ちに防除（手取り、除草剤散布）をしましょう。
- ・手取りした株は種子を残さないようにほ場外で処分（ほ場に種子を残さない・用水に流さない）しましょう。

【難防除雑草（帰化雑草等）に対する防除と管理の目安】



イヌホオズキ



マルバルコウ

※雑草全体にかかるよう株元までしっかり散布(つり下げノズルを使用)しましょう。また、株間に残った雑草や培土後に新たに発生した雑草を防除するため、大豆の本葉にかからないよう散布(ノズルの調整を行う)しましょう。

防除の際は、農薬の使用基準を正しく守るとともに、周辺作物への飛散に注意しましょう。

農作業の際は、適切な水分・塩分補給やこまめな休憩など、熱中症対策を徹底しましょう！